

県政報告

広島県議会12月定例会は、12月9日から12月21日までの13日間の日程で開催され、補正予算や条例改正などを審議しました。

《令和3年度12月定例会の概要》

■補正予算額 416億8300万円

国の交付金や令和3年度補正予算を活用し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止や防災・減災、国土強靱化の推進、高病原性鳥インフルエンザへの緊急対応など、安全安心の確保に向けた取組に時機を逃さず対応する。

また、9月補正予算編成後の状況変化等を踏まえ、必要性が認められる事業に適切に対応することを基本として、それぞれの欲張りなライフスタイルの実現に向けた取組に対応する。

1 新型コロナウイルス感染症対策

25,998百万円

(1) 感染拡大防止対策 [14,336百万円]

○PCR検査体制の強化 PCRセンター等の継続的な設置・運営と「ワクチン・検査パッケージ制度」の検査等を実施するため、県内各地域に検査体制を整備	9,891百万円
○ワクチン接種体制の整備 ワクチンの追加接種を円滑に行うため、県主体の大規模接種会場を設置するとともに、個別接種の促進や職域接種に対して支援	3,910百万円
○患者搬送体制の整備 新型コロナウイルス感染症軽症患者等の搬送業務の民間事業者への委託を継続して実施	285百万円
○自宅療養者等健康観察フォローアップ事業 保健所の業務負担軽減を図りつつ、自宅療養者等に対する健康観察体制を強化するため、自宅療養者等の健康観察業務等を行うフォローアップセンター機能を整備	238百万円
○県立学校における感染防止対策 県立学校における感染防止対策を実施するために必要となる消毒液等の保健衛生用品を追加整備	12百万円

(2) 医療提供体制の確保 [11,348百万円]

○病床の確保 新型コロナウイルス感染症患者の入院病床を確保するための空床補償として、医療機関に対し必要な経費を継続して支援	4,763百万円
○宿泊療養施設の確保 陽性無症状患者及び軽症者が安静・療養可能な受け入れ施設を確保するための宿泊施設を継続して借上・運営	6,501百万円
○医療提供体制の確保 入院医療費の自己負担分及び感染症医療支援チームの活動費について、継続して支援	84百万円

(3) 安心安全な県民生活 [133百万円]

○公共交通事業者への支援 新型コロナウイルス感染症の影響に加え、燃油費高騰により厳しい経営状況にある公共交通事業者に対し、燃油費高騰分に係る影響額の一部を緊急的に支援	133百万円
---	--------

(4) 教育機会の確保 [70百万円]

○修学旅行費用支援 新型コロナウイルス感染症の影響により修学旅行を中止等した県立学校、私立学校において、保護者の経済的な負担軽減のため、キャンセル料（企画料相当額）を支援	62百万円
○県立特別支援学校への支援 新型コロナウイルス感染症対策として、前倒しで配備を進めている一人1台のデジタル機器の活用において、障害により、機器の入出力に困難を抱える児童生徒のための入出力支援装置等を整備	8百万円

(5) 新しい生活様式を踏まえた経済活動の安定的発展 [110百万円]

○新事業展開に取り組む県内事業者への支援 新型コロナウイルス感染症による影響を受けつつ、令和3年7月・8月豪雨により被災し、経営上、危機的な影響を受けながらも、アフターコロナ時代に向け新事業展開に取り組む事業者を支援	110百万円
--	--------

2 それぞれの欲張りなライフスタイルの実現 [債務] 286百万円

(1) 県民一人一人の夢や希望の実現に向けた「挑戦」を後押し [[債務] 286百万円]

○スマート農業技術の実証試験の実施 生産性の高い農業の実現に必要なひろしま型スマート農業技術の確立に向けた令和4年度実施の現地実証試験について、実証に取り組む企業グループに委託して実施	債務60百万円
○県立高等技術専門校における委託訓練の実施 令和4年度実施の県立高等技術専門校施設内で行う訓練の一部を民間教育訓練機関等に委託して実施	債務42百万円
○離転職者を対象とした委託訓練の実施 令和4年4～6月開始の離転職者を対象とした介護福祉士等の職業能力を習得するための訓練を民間教育訓練機関等に委託して実施	債務183百万円

3 創造的復興による新たな広島県づくり 15,051百万円

(1) 将来に向けた強靱なインフラの創生 [15,051百万円]

○平成30年7月豪雨災害に係る対策（公共事業） 国の補正予算を活用し、平成30年7月豪雨災害により被災した施設等の早期の復旧・復興に取り組む 【内訳】 〔補助公共事業〕 ・河川事業（築堤・護岸の整備等） ・砂防事業（砂防施設の整備） ・治山事業（治山施設の整備） 〔国直轄事業負担金〕 ・砂防事業（砂防施設の整備）	15,051百万円
--	-----------

○河川改修費 令和3年7月豪雨で堤防決壊が発生した天井川について、再度災害防止のための堤防強化対策を実施【公共事業】	101百万円
○人事委員会勧告を踏まえた特別給の改定 県人事委員会の勧告を踏まえた特別給（期末手当）の年間支給月数の引き下げ	▲1,855百万円
○令和3年7月・8月豪雨災害等に係る対策（公共事業） 国の補正予算を活用し、令和3年7月・8月豪雨災害等により被災した施設等の早期の復旧・復興に取り組む 【内訳】 〔補助公共事業〕 ・河川事業（調査・設計等） ・砂防事業（砂防施設の整備） 〔国直轄負担金〕 ・河川事業（護岸等の災害復旧） ・砂防事業（砂防施設の整備）	667百万円
○高病原性鳥インフルエンザ緊急対応 県内の採卵養鶏場において高病原性鳥インフルエンザが発生したことを受けて、収入減少等の影響を受けた畜産経営体への支援を実施するとともに、全国的な感染状況を踏まえ、再度発生した場合のリスクにも備える	債務8百万円 1,112百万円
○緊急的な措置への対応 今後の不測の事態に対応するため、予備費を増額	600百万円

《新型コロナウイルス感染症対応の累計》

総額 3,904億3,300万円

令和2年度までの累計	1,594億 900万円
令和3年度現計予算（補正前）	2,050億2,600万円
令和3年度12月補正（定例会）	259億9,800万円

※基金積立を除く実質事業費

■令和2年度決算の認定

- 一般会計・特別会計、企業会計

■条例〔8件〕

【改正】（8件）

- 広島県手数料条例及び広島県警察関係手数料条例の一部を改正する条例 など

■人事案件〔2件〕

- 広島県公害審査会委員の任命の同意について
- 広島県収用委員会委員及び予備委員の任命の同意について

■その他の議案〔15件〕

- 工事請負契約の締結について
- 財産の取得について
- 公の施設の指定管理者の指定について など

■180条専決処分報告〔3件〕

- 工事請負契約の変更について など

■意見書〔1件〕

- 海洋プラスチックごみ対策の強化を求める意見書

■議員定数等調査特別委員会の設置

- 広島県議会議員の議員定数及び選挙区に関する調査・検討を行うため「議員定数等調査特別委員会」を設置（委員12名）

地域の安全対策の推進

～老朽化した道路整備や急傾斜地の安全対策を進めています～

1 一般県道三谷神辺線の整備を推進

- 地域幹線道路である三谷神辺線の整備が進められています。
- 当該区間にある掛之橋は、昭和12年に高屋川を横過するために建設されましたが、道路の幅員が狭く、約80年間使われ老朽化が進行したため、令和3年度から下流側に橋梁を架け替える工事に着手しています。



(工事前)



(工事の状況：令和3年12月)



2 急傾斜地崩落対策事業を推進

- 地域の安全を守る対策として、神辺旭高校南側にある法面の工事が始まりました。
- 事業は3年後の完成を目指しています。

広島県の森林の適正な管理に向けて

～苗木の安定供給と県民税による森づくり～

広島県では、「2025広島県農林水産業アクションプログラム」に基づく、生産性の高い持続可能な林業経営の確立に向けて、各施策に取り組んでいます。このうち、伐採後の再造林に必要な苗木の安定供給に向けた取組、ひろしまの森づくり県民税を活用した取組をご紹介します。

1 苗木の安定供給に向けた取組

再造林の推進により増加する苗木の需要に応えていくため、県と広島県樹苗農業協同組合（組合長：松岡宏道）が連携し、苗木生産の拡大に取り組んでいます。

《「コンテナ苗」の生産拡大》

従来から利用している苗に比べて効率的な苗木生産が期待でき、年間を通じて植栽が可能なコンテナ苗への転換を進めており、巡回指導や研修会により技術面の支援を行うとともに、生産施設整備の支援を行っています。



コンテナ苗

《花粉の少ない品種の導入》

国民の約4割が罹患し国民病ともいわれる花粉症への対策として、花粉の少ない品種の導入に取り組んでおり、今後、県産の花粉の少ない品種の苗木が供給可能となります。



一般的な品種のスギ 花粉の少ない品種のスギ

2 ひろしまの森づくり県民税を活用した取組

「ひろしまの森づくり事業」は、森林を県民共有の財産として守り育て、次代へつなげる取組として、平成19年度に導入された「ひろしまの森づくり県民税」を活用して事業を行っており、実施期間を1期5年に区切り実施しており、令和3年度は3期目の最終年度になります。

《主な事業内容と取組の成果》

- ① 人工林対策として、手入れ不足の人工林の間伐することにより、水を貯える働きや災害を防止する働きなどを回復させてきました。（第3期の実績 平成29年度～令和2年度 間伐面積 2,703ha）
- ② 里山林対策として、景観悪化、鳥獣被害、防災対策として森林整備することにより、放置された里山林の再生を行ってきました。（第3期の実績 平成29年度～令和2年度 森林整備面積 689ha）



人工林対策（間伐実施後）



里山林対策（整備後）

広島県子供議会の開催

～子供達から広島県の将来を思い描いた提案がされました～

- 令和3年10月23日「広島県子供議会」が広島県議会で開催され、会場では、参加した県内の小中学生31名が、10年後の広島県を思い描き議論し考えたことを提案し、湯崎知事等から真摯な答弁がされました。
- 子供達は、「平和」「学校・教育」「人権・福祉」「交通・地域振興」「自然・環境」「防災・街づくり」の6のグループに分かれ、それぞれが事前勉強でしっかり準備して本番に臨み、全員が本会議場で自分の言葉で考えを述べられました。
- 福山市内からは5名の小中学生が参加し、「ICTを活用した授業の充実」「子供達が色々なスポーツができる環境づくり」「河川清掃を行う団体等への支援や自然への影響を抑えた製品開発と使用促進」「カキ殻の新たな再利用」「災害時に自力で避難が困難な方への援助や防災意識を高めるためのイベント開催」について提案がありました。
- 子供議会での提案の中には、県が議論を始めて実現につながったものもあります。
- こうした体験は、子供達にとって大きな自信となります。多くの子供達が様々な事に興味を持ちチャレンジしていただきたいものです。



《県議会での交流会》



《於：県議会本会議場》

デジタル化に対応した産業教育設備の整備

～県立高校に最新式の産業教育用の設備が大量導入されます～

- 県教育委員会では、Society5.0時代の産業を支える職業人を育成するため、県立の専門高校などにデジタル化に対応した産業教育設備の整備を行っています。
- 職業教育を主とする専門学科では、職業に関する教科・科目で実践的・体験的な学習活動などを通して資質・能力の育成を目指しており、企業が導入する設備の高度化に見合った専門的な知識や技術の定着を図る必要があるため、本年度、県内13校の専門学科等に自動旋盤や3Dプリンタなど27億円規模の設備を導入しています。
- 神辺高校の総合学科では、2年生から5系列に分かれて授業を行っていますが、「機械テクノロジー系列」をはじめ複数の系列で専門的な知識と技術を習得するために「3Dプリンタ」「自動旋盤」「マシニングセンタ」「NC旋盤」「原子吸光分析装置」「高速液体クロマトグラフ」の整備を進めています。

《マシニングセンタ》

コンピュータ制御によって自動的に工具を交換することにより、様々な加工を連続して行い、金属部品の加工を行う機械



《高速液体クロマトグラフ》

液体中の混合物を分離し、分取・分析する機械

